

# 9月 園だより

日中はまだまだ暑いですが、日が暮れる時間も少しずつ早まり、朝夕はなんとなく気温も下がってきたように感じます。緑色をした栗のイガもだんだんと大きく育っていて、ちゃんと秋が近づいていることに気づかれます。

ちょっと前まで、夏休みといえば子どもは元気に外で遊ぶものというイメージでしたが、これだけ猛暑続きの毎日では、小学生が外で遊んでいる姿もほとんど見られない夏でした。

秋には運動会や遠足もあります。少し涼しくなったらお散歩にもたくさん行って、子どもたちと一緒に小さな秋を見つけたいと思います。

## 子どもと嘘(ウソ)

「この前ね、〇〇くんのお家に泊まりに行ったんだあ」と嬉しそうに話す T くん。T くんを聞いて「それは楽しかったねえ」とその日の出来事を色々聞かせたもらった M 先生。お迎えに来た T くんのお母さんに「この前はお泊りに行って楽しかったんですけどね」と聞くと「え、行っていませんけど・・・」というお返事。このエピソードを聞いたみんなが思わずクスッと笑ってしまいました。

「嘘を言う子にはなってほしくない」という言葉を耳にすることがあります。

「嘘つきは泥棒のはじまり」という言葉もあるくらいですから、昔から「嘘＝悪」と思われていることでしょう。

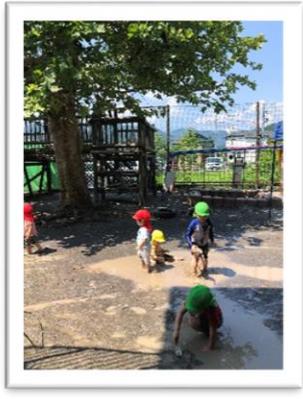
では、子どもは嘘をつかないで大きくなれるのでしょうか。いいえ、子どもは嘘をつきます。

子どもは大きくなる中でいろいろな自分の世界を作り上げ、それを守るために嘘をつくことがあります。その嘘は「こうだったらいいな」という自分の作ったファンタジーの世界を壊されたくなかったり、忙しい大人の注目を引くためであったり、時には自分に都合の悪い出来事を誰かのせいに見せたり、反対に誰かを守るために自分が罪をかぶるような正義感の芽生えともとれる嘘をつくこともあります。つまり成長の過程でいろいろな嘘を経験するのです。いい嘘も、そうではない嘘も含めて、嘘を言ったり言われたり・・・。

なんとなく思い浮かぶエピソードがあるのではないのでしょうか。「嘘＝悪」とだけ思っていると「うちの子がそんな嘘を言うわけがない」「うちの子はいつから嘘つきになってしまったのでしょうか」ということになってしまいます。ジョークと言われるようにみんなを面白がらせる嘘もあれば、何かを守るためや、相手を傷つけないようにとついた嘘ならば「あらあら、そんな嘘を言えるくらい成長したのね」と寛容に受け止めたものですね。当然ながら自分の利益のためだけの嘘や、相手を悲しませたり、傷つける嘘はだめだよとしっかり伝えていきたいです。それでも、そんな嘘を言わざるを得なかった心の背景にも大人はしっかり思いを馳せたいですね。



スプリンクラーで水遊び♪



なかなか大胆な水遊び  
〈むしろ泥んこ遊び♪〉



8月に子どもたちと一緒に読んだ絵本  
「へいわとせんそう」  
「敵も味方も同じ顔だね」「戦争は嫌だね」と子どもたち・・・